神奈川県立平塚ろう学校　令和３年度第２回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第２回学校運営協議会
開催期日	令和３年11月25日（火）
開催場所	書面開催
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員８名
次回開催予定日	令和４年２月下旬
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　星野 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	＜学校評価部会＞ ・学校見学（シン・運動会動画視聴を含む） ・令和３年度学校評価（中間評価）について ①　学部中間評価について ②　グループ中間評価について ＜切れ目ない支援部会＞ ・　平塚ろう学校の支援と課題について ・　令和４年切れ目ない支援部会委員について
審議（会議）経過	＜学校長挨拶＞ ＜学校見学、シン・運動会動画視聴＞ 【意見】 ・動画は工夫があっておもしろかった。コロナ禍だからこそできることがたくさんあるということを感じた。 ＜令和３年度学校評価（中間評価）＞ 【質問】 ・今回のコロナ禍の中でいろいろ試しながらの活動をして前期の評価をしたと思うが、コロナだからこその工夫はあるか。 【回答】 ・支援は人と人とのつながりが重要で、対面で情報共有できなかったのは厳しかった。コロナ禍でもどのような方法であればできるかを考えながらやってきた。進路では現場実習がなくなったりしたが、連絡を密に取りながらなんとか必要なことはできたと思っている。進路学習や講師を招いての講演会などがオンラインになってしまったが、できてよかったと思っている。 ・例年通りの実施が無理なので、修学旅行は小、中、高ともに近県に

	なった。感染対策の一例として、部屋風呂に一人ずつ入り、終わると流して次の人が入った。みんなで入る楽しみを味合わせたかったが、それ以上に修学旅行を実施して、友達と良い思い出を作れたことが良かったと思う。 【質問】 ・町内会で登下校の安全を守る観点で様々な取り組みをしている。交通安全に関して学校として取り組んでいることはあるか。 【回答】 ・各学部でこどもが通学に慣れるまで時期を決めて通学指導を行っている。また、下校時には教員が校門に立ち迎えの車と子どもの見守りを行っている。町内会の取組はよい取組で参考にしたい。 【意見】 ・コロナ禍で先生方にいろいろな工夫をしてもらっている。様々な行事で保護者の参加が制限されたこともあったが、今は残りの１年がとても充実していると感じている。今年からクラスの人数が増え、今まで話せなかった子どもたちと話すことがとても楽しいと言っている。修学旅行でも一緒に乗り物に乗るのが楽しみといっている。 【質問】 ・ＩＣＴ活用は教える側のスキルとして使うのは当然のことだが、生徒たちに対してのＩＣＴ教育はどういう方針で行われているのか。ろう者は情報を得にくく不利な点はあるが、ＩＣＴに関しては有利、不利は関係ない。だからこそ、生徒には高いスキルを身につけてほしいと思っている。 【回答】 ・現状のＩＣＴ活用は、授業でいかにわかりやすく伝えるかがメインだが、コロナの影響によりＰＣを利用したオンライン授業や動画配信などを行ったので、スキルは上がったと思う。また、ＳＮＳを利用する際の注意などは行っているが、もっと力を入れていかないといけないと思っている。 【質問】 ・ろう学校を見学した際、幼稚部に給食のメニューが書かれていたが、幼稚部の子どもがひらがなを理解しているのか。私が学んでいたころは、小２ぐらいまでは授業を教わるということはなく、口話の訓練だった記憶がある。質問だが、幼稚部では発音訓練はやっているのか、また、ろうの職員は今何人いるのか、理美容科は今はあるのか。

	・高等部については任意だが、各学部で発音発語指導は行っている。コロナウイルス感染予防対策として、声を出す学習活動を控えていた時期は指導をやめていた。発音発語指導専門の教員がいて、担任がその指導を受けて授業の中でも指導しているが、教員の指導力がまちまちのため課題となっている。 ・現在本校に理美容科はあるが、生徒は在籍していない。今年度もちらしを作って配付した。２人ほど興味を持った生徒が見学に来たが、県外の生徒だったためかなわなかった。 【質問】 ・こどもたちのあいだでＬＩＮＥなどでの問題が多数起きているように思う。スマホの使い方やどこまで見てもよいのかなど、親としてもどのように接していけばよいのか悩んでいる。 【回答】 ・スマホは便利だが、使い方、教育という点から適切な使い方、対応をしていかなければならない。本校でもトラブルがある。日頃の関わりから対人関係のトラブルが起きることもある。教員が全部チェックすることはできない。また、表に出てこないと対応できない。改めて考えさせられる問題と思っている。 ＜切れ目ない支援部会＞ ・来年度以降の進め方について、学校から提案。 【概要】 ・本校の支援部には、相談支援と進路支援活動がある。相談活動は校内外にあるが、校内でも相談件数は多くなってきている。校外の支援としては、０，１，２歳児を対象とした「乳幼児相談」と、地域で学ぶ子どもたちが自分のきこえのことを学ぶ自立活動の場として「通級指導」を設けている。課題は、支援の継続性が必要で、環境や関わる人が変わっても変わらない支援、切れ目ない支援が必要である。 ・来年度の切れ目ない支援部会としては、就学前の支援を中心に行っていきたいと考えている。聴覚障害児支援は早期発見、早期相談が大切と言われている。その中でも、就学前の相談が重要であり、それをどうしたら充実できるのかが課題だと考える。そのため、県内の他のろう学校や医療、福祉、行政とどのように連携していけばよいのかを来年度以降の切れ目ない支援部会で考えていくというのが提案です。 ・補足です。就学前については県内でどこに相談にいけばよいかわ

	からない方が多い。来年４月から行くところが未定の子どもがいる。県内のろう難聴の子どもをどのようにフォローできるのか。別のろう学校、聴覚障害者福祉センターなどどの連携も必要である。来月に４校の校長で集まるので、そこで提案して「切れ目ない支援部会」につなげていきたい。市役所の障害福祉課との連携も必要だと考えている。文科省、厚労省に実情を伝えるためにも方向性を考え、モデルを作って全国に発信できればよいと思っている。ここから何が発信できるのか、学校から社会を変えていきたい。